

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



ご両親面会の感想 5月24日(金)

令和初めて、鮮やかな新緑に迎えられ午後一番の面会。グリーンのジャンパーで先月面会したよりもスリムな感じいつもの笑顔でお互いの安否確認ではじまる。

明日は、三多摩の会の総会に参加、阿部弁護士が講師となり、おトランプさんの来日で交通規制が厳しくなり、予定通り着けるか心配ごとや、まもなく提出する上申書の内容など何気ない話し合いにも、息子は答えるのに若干戸惑いが見られ、ピンポン玉が返らない苛立ち。

隔離され18年の隔たりがここにもかと一日も早く社会に戻さねばと新たな決意と意気込みを感じてきた。

5月というのに季節外れの猛暑が続き令和の幕開けが心配されるが、来月には茨城の守る会に私達とともに堀井弁護士が講師として呼ばれており弁護団の動きも活発になり、裁判にとって令和は良き

4月22日(月)神奈川の会

面会に行きたいと思っていたのですが「地方選」とその他の用事が重なっていけませんでした。やっと面会が岩坂さんと一緒に行くことが出来ました。大助さんは、いつもと変わらない笑顔で「やあお久しぶりです」と迎えてくれました。

日頃手紙を出していますのでそれほど久しぶりという感じもせず、親しい友人に会った様なそんな気分でした。今年の冬は寒く野菜洗いで手がひどくなっていると聞いていたので「手の方はどうですか」と伺うとニコニコしながら「大丈夫です」すっかりきれいになった手を見せてくれた。

その後、仕事の内容を聞くと料理を運ぶ仕事は6人が行うので少し仕事が軽減されたと言っていました。仕事はなくてもお腹を空かしての労働はきついとされました。又、挑発をかけてくる人もいますがそれに乗らないようにしている。「懲罰」を受けないようにしている、かなり忍耐をしていると思いました。私達に対していつも笑顔の裏に厳しい日々があると心が痛む思いでした。 添田美智子さん

えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行うが2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

一羊会
森田・小林・佐々木の皆さん



野田さんと秋葉さん



千葉刑務所

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2019年 130号

● 6月は中旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

面会感想にご協力をください。千葉県本部へ E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

5月27日(月)玉田ミタテさん

今日は絶対朝一番で面会しようと勇んで家を出たのですが出来ず10時前に受付をする。1ヶ月ぶりの大助さん、少しやせたかなと感じたが、ニコニコ笑顔の好青年こんなところに入れておけないと改めて思う。仕事の話もキツイだけでなくゆとりが出来たのが前ほどははらしなくて聞くことが出来た。10連休の中でお祝いの日には前は柏餅が出たのに今年は何もなかった娑婆の動きは関係なく仕事が続いた。白石川の千本桜、船岡公園(宮城)、九十九里浜を歩いてみたい、勝手ことを言いながら元気で戦いぬくことを改めて誓いあってガラス越しにタッチで別れた。

あはあはと声たて笑う君がいる
面会時だけと大声たてて
専任の食事の仕込み調理人
君はえん罪 再審開始
週刊誌3冊を差し入れ



5月31日(金)野田利子さん

レンガ色の千葉刑務所は樹々の緑の奥に静かにたたずんでいた。ポディーチェックされて、7つほど並んだ面会室手前のそ部屋で大助さんと向かいあった。脇で職員が話の内容を記録する。秋葉さん、戸賀さん、私で面会時間は30分。大助さんは私たちの目をまっすぐに見て話しの一つひとつに丁寧に応えられた。大助さんの年齢は私の長男と同じ。まずは健康は？を聞いた。食べ物は3回の食事のみお代わりなし、それが体に良いのかもと笑う。塀の外に出たい！袴田さんのような形で外で声を上げたい！裁判所は独立していない！せめて裁判員制度で市民の良識を反映させてほしい！布川事件嬉し！共同作業なので皆に負担をかけぬよう面会日は作業の休みの日に行っている…等々。大助さん、あなたの無念を抱えての日々、その時間が、今、この時間も流れていく。そう思う何ともなんともやりきれない。帰宅してまずは、3人の子供たちとその家族、3人の妹たちに報告の連絡した。長男から友人が保護司をしていると返信が。そういえば職員さんたちは、みんな物静かで柔らかく、戸賀さんとは、すっかりおなじみの感じだった。差し入れは、絵本「わすれられない」おくりもの「木を植えた男」の2冊、自作の葉書地元で作っているニュース。ちぎり絵等貼ってあるものは不許可とか。

5月16日(木)一日も早い再審開始を願って



森田麻里子(日本聖公会有志「一羊会」)

5月16日(木)に1年ぶりの再会をしました。日本聖公会東京教区人権委員会委員長佐々木さんと「一羊会」の小林さん、森田で大助さんのお元気な様子にホッとしながら、再会の喜びでいっぱい面会を致しました。職場でのイジメがなくなったと伺い、なにより安堵しました。それにしても前号の岩坂さんの面会記にありますように、調理場の仕事は大変です。

例えばニラは30キロ準備すると伺って、小さな一束しか購入しない者にとっては、驚きの分量です。1000人の食事の準備は半端ないですね。

「5月23日に宗教者平和ネット、キリスト者平和ネットの内閣府要請に参加するので、訴えたいことは？」と質問しました。「国は冤罪に対して真剣に考えてもらわないと。国を挙げて考えないと、何も変わらない。」と強い表情で訴えられました。

昨年詩文集増補版を発行しました。1冊につき100円の著作権料をお届けしていますが、今回は1万円お支払い出来ました。「いやあ、本当なら皆さんの経費に使って頂くべきなのに。」と大助さんは恐縮されていました。困難な境遇にあっても、相手の方を優先する優しさがにじみ出ています。多くの支援の方が大助さんの優しさに魅了されているのだと改めて思いました。

毎月本の差し入れをしている者が韓流ドラマの小説について質問をしました。休みの日に韓流ドラマを楽しみにされていると初めて知りました。

私は韓流ドラマが大好きなので、本当にビックリしました。面会の度にガラス越しの大助さんに対し辛く、お役に立てず申し訳ない思いを抱いてきました。それが本当に不思議です。同じ韓流ドラマ好きとお聞きすると、いきなりガラス越しではなく、同じ地平線に立って楽しい思いを一瞬共有できたのです。「同好の士」の気分を大助さんが味あわせてくれました。

「再審法改正をめざす市民の会」が結成されました。一日も早い再審開始、一日も早い無罪確定、一日も早い仙台への帰郷を日々お祈りしていきます。差し入れは現金、雑誌、本、日用品